

自己評価表

- 自己評価表は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービス成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないに関わらず事実を記入。)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム湯沢四季の里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	湯沢市西新町9-7
記入者名 (管理者)	菅 ルミ子
記入日	平成20年11月1日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自のものとして作り上げ、玄関に掲げている。自然に目に止まり読まれている場面が多く、スタッフと語り合う場面もある。	○	これからも掲げていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、理念を唱和し共有している。	○	理念の内容をスタッフに理解できるよう説明していききたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来所時、すぐに目の付く所にあり、運営者自身の手で書かれている。毎日の通信などで理念の浸透を図っている。	○	今後も理念を通信などで広報し、示していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの行事の誘い以外にも日常的にあいさつを交わしている。	○	今後も日常のあいさつを基になじみの関係を作っていききたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流の機会を作り孤立することなく交流を進めているが参加者が限られている。	○	今後も交流の機会を増やし様子を見ていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	湯沢市の行事等に参加し、またホーム内での行事にも地域の皆様が参加しやすい様取り組んでいきたい。	○	災害時の一時避難所等考えている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価、自己評価を行うことが以後の業務に反映できるよう、会議等で話し合い問題点などを改善するよう努力している。	○	評価を活かして、業務の改善、反省として理解できるようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、会議を通じて利用者のサービス向上につながるように努めている。	○	運営推進会議では、情報交換等がサービスの向上につながっていくように努力したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、市役所と連絡を取り合っている。	○	サービスの向上につながるような取組みの仕方も必要なので、全スタッフがパイプ役になれるようにしていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	専門的な知識としては不足しており、学ぶ機会がない。		今後、機会を設けていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に近い言動があればその都度注意し、改善を促している。		虐待について、今後も理解を深めていくよう学習の機会を設ける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。年2回契約書に全スタッフが目を通している。	○	これからも利用者、家族への不安や疑問に答えるための対話を持つ。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	井戸端会議を月1回設けて、利用者、スタッフと話し合う機会を持っている。担当制を設け、ターミナルへの希望を聞き出すようにしている。	○	ターミナルについては家族に伝えていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	四季の里通信や便りで月1回定期的に報告している。日頃の生活状況を手書きで温かみのあるものにしていく。	○	今後も内容を深めながら継続していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付は玄関の所に設置し、口頭でも受付している。	○	苦情処理内容を公表する方向で考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させていく	無記名式のアンケートを行い、反映できるようにしている。		風通しの良い雰囲気が必要。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	努めている。		状態の変化に応じて全スタッフが柔軟に対応できるように、意識改革をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を必要最小限に抑えるようにしている。		適材、適所を取り入れている
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのレベルに応じた研修に参加して頂き、1回以上外部研修に行っている。内部では月1回自主研修を行っている。資格取得についても、どこに行っても通じるようにと会議等で伝え、スキルアップを促している。	○	専門的分野以外の研修も取り入れていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度、GHネットワーク（管理者間）で交流研修をしている。利用者の方も含め他へ訪問し、良い所を参考にしている。スタッフの交流研修も行っている。	○	スタッフの交流研修を増やしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	アンケートなどを取り、職員のストレス度の軽減に向けた取り組みをしている。		笑顔を絶やさない取り組みを始めている
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	全体会議や四季の里会議を通して、運営者の意見を聞くことができ、向上心につながっている。	○	専門職としての資格取得に努めるよう伝え、それぞれがより向上心を持って、高度の技術を身につける意欲を持続させたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日常の生活の中で機会を作り、受け止める努力をしている。	○ 日常の何気ない会話の中で、あるいは直接的に本人の心を聞き受け止める事が出来るように、これからも努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当、ケアマネを中心に機会を作っている。	○ 担当ケアマネが機会を利用し傾聴し、本人、家族を理解することができるように努めていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン、モニタリングなどを通し、必要なサービスを見極め支援できるように努めている。	○ ケアプラン、モニタリングに家族や本人が参加し、必要な支援を行う事が出来るよう努力する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	サービス提供するにあたって、家族に十分説明し、理解して頂いた上でやっている。本人、家族とは必要があれば相談の機会を設け行っている。	○ 入所前に十分本人、家族と理解する機会を持ち、入所後も必要であれば機会を作りお互いの理解を深めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活史を理解し、聞く事によって話し合いを持ち、共に過ごしている。	○ 本人の人生を肯定し尊重できる関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族も一緒に本人を支える関係を作ることが出来るように努力している。	○	家族もホームも一緒に本人を支援するために、良い関係を作り理解し合えるように努力を深めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時又は電話で必要な時に連絡し、理解して頂くように努力している。	○	支援を通じ、本人と家族の良い関係が保てるように努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけこれまで馴染みの関係が保てるように努めている。家族との関係が薄れないように支援に努めている。受診についての協力も、つながりを持てるよう出来る限りお願いしている。	○	外出したい時や家に帰りたい時にいつでも本人の意思にそえるように調整している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の一人一人の関係を大事にし、関わり合い、支え合えるよう支援している。	○	孤立しないよう大きなトラブルにならないように関係を調整し、支援に努めている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されても継続的な関わりを必要とする時は、支援するよう努めている。	○	今後も継続し、必要な支援ができるように努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	業務優先でなく、一人一人の思いを遂げる事ができるよう、できるだけ努力している。	○	利用者一人一人の思いをスタッフ全体で共有していくことが出来るようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン、アセスメントをする時、これまでの生活史、サービス利用の経過を把握できるように努めている。	○	入所時の調査及び随時に生活史シートの聞き取りに応じて頂けるよう、良好な関係を保てるよう努力する。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当ケアマネを中心に、バイタルや生活の総合的な把握が出来るように努めている。	○	本人に適した記録シートを選択や、本人の力の総合的な評価を行うモニタリング、ケアプランなどのカンファレンスを適時開催する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族にあったプランと意見、アイデアに沿うように心がけている。	○	本人、家族の意向が反映し、介護関係者各方面の話し合い意見が反映するようにプランを立てることが出来るように努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは定期的、あるいは随時行っており、家族にも理解して頂けるよう連絡している。	○	見直しは定期的、随時に行い、家族、本人の意向が反映されるように努め、家族と連絡を密に取っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別記録やレク日誌等に記録し、情報の共有化を図っている。	○	個別ケアの実践やカンファレンス等を踏まえ、介護計画の見直しに役立っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じ支援している。また、併設の小規模多機能事業所とも連携を取り合い柔軟な対応をしている。	○	これからも継続し、実践していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員、ボランティア、警察、消防署等、医療機関等と個別に連携を取り協力を得ながら支援している。	○	本人の意向、必要性を考慮し、地域資源の協力を得ながら支援体制を築いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養や他事業所等に入所希望された場合、必要な連絡、調整などの支援を行っていく。	○	今後も必要であり、継続実践していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて、総合的な支援や長期的ケアマネジメントを地域包括支援センターと協働して行っている。	○	今後も必要であり、継続実践していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	今後も本人、家族の希望、意向を踏まえながら適切な医療を受けられる様に支援していきたい。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	今後も、認知症への適切な医療を受けられるよう支援を継続していきたい。
45	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	今後も地域の看護スタッフとの連携を深めながら、適切な健康管理を行えるよう支援していく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	今後も適切な対応が出来るように支援を継続していく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	今後も個別に利用者に対する終末のあり方について、家族と話し合いの機会を作っていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後も個別的な対応、家族との連携、出来ることと出来ないこととの見極めをし、チームとしての検討を重ねた上で、適切な支援を提供できるよう努力を重ねていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族にダメージを与えないように、話し合いを段階的に持ちながら不安を軽減できるように努力している。	○	今後も話し合いをそれぞれの段階で持てるようにし、不安除去に努めていく。ダメージを最低限におさえている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個別対応に心がけており、プライバシーを損ねるような対応がないように、スタッフ同士声をかけ合い細心の注意を払って支援している。	○	個別対応の必要性、プライバシーを損ねるようなことがないように、スタッフが声を掛け合って努力している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ本人の希望に副えるよう支援をし、本人の理解度に応じた説明の仕方をするように心がけ、チーム全体で自己決定を支援している。	○	本人の希望、自己決定を支援できるように、チームでどう支援できるかをカンファレンスなどでスタッフが情報を共有できる体制を作っていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活をするために、本人の希望を優先させ、マイペースで過ごせるように支援している。	○	個別の対応を優先させ、スタッフのペースにならないように常に心がけている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望があれば、行きつけの店に通えるよう支援している。また、出張してくる場合もあり本人の希望に副えるよう支援している。	○	今後も支援を継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、個人の好みを調査し提供している。準備、片付けも利用者とスタッフが一緒にやっている。	○	今後も支援を継続していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望に出来るだけ副うように心がけている。状況に応じた食事形態、体調を考慮しながら提供させて頂いている。	○	今後も一人一人の置かれた状況を踏まえながら、楽しみのある食事が出来るよう支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	一人一人の排泄状況に応じ、気持ちよく排泄できるように常に心がけている。	○	今後も気持ちよく排泄できるように支援に努めていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間はスタッフ側の都合を考慮しているが、日中入浴して頂いている。一人一人の健康状態に合わせて入浴を楽しめるように支援している。	○	時々温泉浴等を利用し、入浴をより楽しみのあるものにしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠、休息はその人のペースに応じて、気持ちよく過ごせるように支援している。	○	今後も、安眠、休息が気持ちよいものになるよう支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人に応じて役割を持ち、メリハリを持つ生活出来るように支援し、生活を楽しんで頂いている。	○	個別の生活史を把握し、レクリエーションを行い、その人にあった支援、話題提供をしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額預かり金（おこずかい）としてスタッフがお金を管理して、必要な時だけ所持していただき使っている。	○	現在は一律に管理しているが、本人の能力に合わせて所持していく方向で検討してみたい。また、ご本人自身から「失くしてしまうので預かって欲しい」とお願いされる方もいるので、その気持ちを大切にしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気に応じ近くの公園に出かけたり、イベント見学に行ったりし、出来るだけ外出を支援するように心がけている。	○	外出支援も四季の移り変りを知り、気分転換になるので、随時計画し実行に移せるよう努める。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人一人の利用者が家族、地域との関わりを断ち切らないように、あるいは家族と一緒に過ごせるよう外出の機会を作り支援している。	○	今後も努力し、支援していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望であれば、いつでも電話等のやり取りができるように支援している。	○	今後も継続していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人がいつでも気軽に訪問できるよう支援している。	○	今後も気軽に訪問できる雰囲気作りに努めたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないケアに取り組んでいる。	○	具体的な行為についても、スタッフの理解を深めていくように努めたい。また、身体拘束をしないケアを引き続き実践していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関については、利用者の安全と防犯上の理由で、施錠させていただいている。	○	様子を見ながら（玄関に）鍵をかけなくてもいいようにしていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフはプライバシーに配慮しながら、常に所在や様子を確認し安全に配慮している。	○	今後はプライバシーを最大限に考慮しながら、声掛け等に注意し支援していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態に応じて、見守りを行い危険から遠ざけるようにしている。	○	今後も個別の状況に応じて支援していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態に応じた対応をするため、知識の習得に心がけている。	○	個別の状態に応じたマニュアル作りを継続し、更新・見直しをしていく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時に備え、救命講習を受けている。	○	救命講習をスタッフが年1回受講できるよう計画し、急変時や事故発生時に備えたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回災害時に備え避難訓練を行い、地域の町内会や近隣の住民の協力が得られるよう働きかけを実際に行っている。	○	夜間想定避難訓練や通報訓練をもう少し増やしたい。日常的に地域の協力が得られやすい関係作りに努めていく。実際の取組みにより、反省が多くあり、実践として活かせるよう突き詰めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時に十分な説明と納得をしていただき、利用開始後も起こりえるリスクについて、家族の理解が得られるように話し合いの機会を持っている。本人が抑圧感を受けなく済むように努めている。	○	家族と話し合いの機会を多く持ち、理解し合えるように努めていく。報告のみでなく、起こりえることについても家族に伝えた承して頂く。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	大きな変化が現れる前に小さな異変に気づき、速めに対応し記録も利用し、情報を共有化できるよう日々努めている。	○	一人一人にとって必要な情報を見極め、共有化していく。記録の量ではなく質を重視し、都度申し送りする。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法等については、理解を深めるよう努めており、服薬支援や病状の変化の把握に努めている。	○	服薬支援し病状の変化を都度観察し、その人らしい生活が出来よう支援をする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や、病状の緩和につながるよう飲食物を工夫し、身体を動かす働きかけをしている。	○	便秘から精神病状が出る時もあり、便秘がひどくならないうちに緩和したり、状況を確実に把握できるように努力する。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ブラッシングし、口腔状態に応じた支援をしている。定期的に歯科医による口腔の衛生指導をして頂いている。	○	今後も継続して一人一人の口腔状態に応じた支援に努めていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のメニューに基づいて調理し、食事、水分量がバランスを取れるよう状態に応じた支援をしている。	○	今後も継続し努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防マニュアルがあり、マニュアルに従って実行している。特に食事前手洗い、外出時の手洗い、うがいはスタッフと共に随時行っている。	○	今後も感染症予防マニュアルに従い、実行していきたい。外部からの持込をしないよう見学者等にも協力をお願いしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	エプロン・三角巾をし調理に入っており、トイレ介助時には必ず取替えるようにしている。調理用具の衛生、安全な食材の購入、管理についても日々努力している。事故管理チェック表（食中毒）を活用し、刺身・たらこ等の生食は検食を残すようにしている。	○	今後も継続し努めていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみが出来るように花を飾ったりして工夫している。靴を履くとき楽なように長いすを設置している。	○	災害時、避難しやすいように工夫をし、玄関周囲の明るさも保てるように工夫する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感と季節感のある配置にしている。個々にとって何が不快な音、臭い、光なのかをスタッフが把握に努めている。また、トイレについては午前午後2回確認し、快適に使用できるよう努めている。	○	心地よさを求めながら不快（音、臭い、光）を取り除いていき、快適でいられるような工夫に努める。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで1人になれたり、居室で過ごされたり、廊下にソファを置いたりと思い思いに過ごせるよう工夫している。	○	リビングや共同空間においては、一人一人が思い思いに過ごされているが、トラブルも見られることもありスタッフの対応で快適に過ごせるよう努めていく。スタッフは利用者の間に入り、上手に関係調整出来るようにノウハウの習得に努力する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人の好みのもの、大切なものを家財として取り 入れている。	○	今後各利用者や家族が、長年大事にしてきた家財 等を、いつでも気持ち良く持ち込めるように支援 していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	利用者の好みに合った室温湿度調整をしている。 全室換気は朝夕に行ってる。	○	今後も継続して行っていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	一人一人が安全で自立した生活を支援するよ うに工夫している。	○	エレベーター、手摺、トイレの場所を示す表示な ど、自立した生活を支援する工夫は、今後も引き 続き努力していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	本人の認知度に応じた環境作りが出来 るよう努力している。	○	本人の出来る力を把握し、それを生かして いけるような環境を作る。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダや畑も生活空間のひとつであり、活動 できるようになっている。利用者の好きな花や植物 を植えたり、野菜を植えて収穫する楽しみがあ る。	○	今後も外周りの活用を工夫していくよう努力す る。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者個々人が、それぞれのペースで生活され、自分の出来ることは自分でしていただいている。

利用者の現状維持のために、楽しみを取り入れ、レクリエーションを行っている。

レクリエーションは、個々に得意なものに取り組んでいただいている。

食事は全員で（スタッフ含）楽しく取っていただけるよう、仲良しである事をふまえ席に配慮している。

下膳については、最後まで利用者の皆様に片付ける事が習慣化されており、洗いも役割分担が自然に身についておられる。